

令和5年度 授業評価アンケートに関する
自己評価報告書

令和6(2024)年2月
西九州大学
(学校法人永原学園 IR室)

◆授業評価アンケートの活用

視点① 学生による授業評価アンケートの実施

視点② IR 業務を担当する者による分析

視点③ 授業評価アンケート分析結果のフィードバック

1. 事実の説明及び自己評価

視点① 学生による授業評価アンケートの実施

西九州大学の授業評価アンケートは、実施目的を「授業改善のための PDCA サイクルを機能させ、もって本学における教育の質の向上に資すること」と定め、令和 4 年度で 20 年目を迎えた。この目的を果たすべく年に 2 回の授業評価を実施しており、授業評価対象科目は全科目とし、授業評価の実施期間を令和 4 年 7 月 11 日から令和 4 年 7 月 28 日(前期)、令和 5 年 1 月 12 日から令和 5 年 1 月 25 日(後期)に設定した。

アンケートは Web 上(学生ポータルサイト)で実施しており、「あなた(学生)自身の授業参加態度」について 5 項目、「授業内容・方法」について 8 項目、「教員の対応」について 4 項目、「総合評価」1 項目の計 18 の評価項目で構成されており、項目 19 以降は教員による自由設定項目となっている。

学生への実施依頼では、アンケート実施の目的を明示し、アンケート結果については学内外へ公表し学生へのフィードバックも行っている。

視点② IR 業務を担当する者による分析

令和 3(2021)年度授業評価アンケートの平均回答率は前期 51.8%、後期 24.5%であったが、令和 4(2022)年度は前期 69.6%、後期 54.1%と大幅に上昇した。特筆すべきは、授業中にアンケートを実施した際の回答率が 72.3%(後期に限る)という点である。学生の声が授業改善及び教育の質向上に欠かせないことを考えると、可能な限り今後も授業中のアンケート取得について前向きな検討を望みたい。

シラバスの活用(質問項目 2)について、評価平均値が低い傾向が数年続いている。教員によるシラバスの説明(質問項目 6)の評価平均値は、シラバスの活用(質問項目 2)と比較して高評価だが、学生による活用がなされていないと言える。シラバスを活用した学習方法を学生が正確に理解しているか明らかではないが、シラバスを用いて各授業における講義内容と目的をより丁寧に説明し、学修成果を高めることが求められる。

令和 4 年度調査結果は全学科とも評価平均値は 3.0 以上となっている。結果自体は悪いものではないと推察するが、学科による評価値のばらつきが見られる。特にスポーツ健康福祉学科は他学科と比較して低値を推移しているため、次年度以降の改善に期待したい。

視点③ 授業評価アンケート分析結果のフィードバック

担当科目ごとの授業評価結果は、ポータルサイトにレーダーチャートで示されるようになっている。教員は、「結果の分析と評価」及び「次年度に向けての取り組み」を必ず入力することになっており、評価が低かった項目の改善や反省点に対する取り組み方法等を明確にし、次年度以降の授業改善へ繋げる仕組み(PDCA サイクル)が構築されている。学生による「授業評価結果」、教員による「結果の分析と評価」及び「次年度に向けての取り組み」

み」は、本学ホームページへ掲載されるほか、冊子化し図書館へ設置され、学内外へ公表するとともに学生へのフィードバックを行っている。

2. 改善・向上方策（将来計画）

本調査は本学の教育の質を向上させるために毎年実施しているものであるが、以下の点において、改善・向上が望まれる。

・多様化する授業形態への対応

本調査は毎年継続して実施することで経年比較や学習者の傾向などを読み取ることが可能となっている。しかし、オンライン開講やアクティブラーニング型など、多様化する授業形態に適した設問になっているのか今一度見直す必要がある。教育の質を担保するために、学生による授業評価アンケートを有効活用することが望まれる。

・回答率を高めるための調査方法

平均回答率が、前期 69.6%、後期 54.1%（授業中にアンケート実施 72.3%）と決して高くないため、教員による働きかけや調査方法の見直しなど、回答率を高めるための改善策を検討する必要がある。より多くの学生に評価してもらうことで、大学教育のブランド力が高まるものとする。

学校法人永原学園 IR 室